

令和3年度

授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 令和2年度「授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第3学年

令和3年9月
目黒区立第十中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	1 3 0 人	1 3 4 人	1 2 6 人
実施数	1 2 4 人	1 2 7 人	1 1 9 人
受検率	9 5 %	9 5 %	9 4 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

令和3年4月20日（火）

Ⅱ 令和２年度「授業改善プラン」の検証

(1) 成果

- ・昨年度の課題を踏まえた授業展開や解決のための手だてを着実に実施してきたことが成果となり、目黒区学力調査において全体で目標値を上回り、平均正答率も昨年度を上回ることができた。

(2) 課題

- ・第３学年の理科において、基礎的な内容の定着に不十分な点が見られた。特に、観察・実験の技能においては、観点別正答率が目標値を下回っている。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年より観察・実験の回数が減少したことや連年通りの方法実施できなかったことなどが影響とされていると考えられる。今般の状況であっても観察や実験を充実させるため、今年度の授業改善プランを確実に実施する必要がある。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

- ・全教科において、基礎的な学習の定着を図るとともに、カリキュラム・マネジメントに努める。また、思考力、判断力、表現力等の育成のために、言語活動の充実を図る。さらに主体的に学習に取り組む態度を育むうえでも、ＩＣＴ機器の活用を効果的に進めていく。
- ・数学科においては習熟度別指導、英語科においては少人数指導、さらに各授業における学習指導員を活用して、個に応じた指導を充実し学力の向上を図る。

授業改善プラン

第十中学校 国語科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：話すこと・聞くこと】 ○思考力・判断力・表現力 ・話の内容を聞き取る。	・情報を聞き取る際、不要な情報を省いて要旨を的確に聞き取る演習を行う。 ・メモを取りながら聞く場面を設定する。 ・振り返りで、話し合いの目的や他者の意見を正確に聞き取ることができたかフィードバックさせる。
第二学年	【領域：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○知識・技能 ・文法に関する基本的知識 ・第1学年までに学習した漢字の読み	・文節、単語、文の成分の理解、定着を図るための小テストを定期的に行う。 ・文法の復習において、身近なものを例として取り上げ、生徒に発言させる。 ・第1学年で学習した漢字を授業内で扱い、定着を図る。
第三学年	【領域：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○知識・技能 ・漢字および文法・語句に関する知識	・漢字の読み・書きの定着を図るための小テストを定期的に行う。 ・語彙の量を増やすための演習を行ったり、文法に関する演習を行ったりする。

授業改善プラン

第十中学校 社会科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：世界の中の日本の役割】 (観点：知識・技能)	・知識を習得させるために、小テストを計画的に行う。 ・習得した知識を活用して資料を読み解いたり、課題に対して議論して解決したりする活動を設定する。 ・「世界の中の日本の役割」の領域は、公民的な内容であるが、世界地理の学習で小学校の既習事項と関連付けて授業づくりをして復習する。
第二学年	【領域：世界の諸地域】 (観点：知識・技能)	・資料の読み取り方の基礎について、授業で演習を行って確認する。 ・技能を習得させるために、様々な資料を読み取る時間を設定したり、資料をもとに仮説を立てる時間を設定したりする。 ・習得した知識や技能を活用して、結論を自分の言葉でまとめたり、課題に対して議論したり解決したりする活動を設定する。
第三学年	【領域：近代の日本と世界】 (観点：知識・技能)	・知識を習得させるために、小テストを計画的に行う。 ・習得した知識を活用して、結論を自分の言葉でまとめたり、課題に対して議論したり解決したりする活動を設定する。 ・「近代の日本と世界」の領域は、日本史の縦のつながりでなく、世界史との横のつながりがあるため、そのつながりが分かるように、ワークシートを工夫する。

授業改善プラン

第十中学校 数学科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：関数】 (観点：数学的知識及び技能) 単元：変化と対応 ・ 比例と反比例の特徴を説明できる。 ・ 2つの量が反比例している数量の関係を 選ぶことができる。	・ フォローアップワークシートを活用し、夏期休業中に小 学校での基本的な学習内容の復習をする。授業でも復 習する時間を設定する。 ・ 数学的な活動の時間（速さ道のり、ばねの伸び、貯金な ど、様々な関係を式で表し、比例、反比例、そうでない ものどれかを判断する調べ学習）を設定する。
第二学年	【領域：データの活用】 (観点：数学的知識及び技能) 単元：確率 ・ 数学的確率について理解する。 ・ ある事象の起こる確率を求めることがで きる。	・ フォローアップワークシートを活用し、夏期休業中に第 1 学年での基本的な学習内容の復習を課題とする。経 験的確率の内容については授業でも復習する時間を設 定する。 ・ 数学的な活動の時間（経験的確率を用いて不確定な事象 を捉え説明する調べ学習）を設定する。
第三学年	【領域：関数】 (観点：数学的思考力、判断力、表現力等) 単元：関数 $y = ax^2$ ・ 事象を一般化し、関数にすることができ る。 ・ グラフを読み取り、説明することができ る。	・ フォローアップワークシートを活用し、夏期休業中に第 2 学年での基本的な学習内容の復習を課題とする。一 次関数の内容については授業でも復習する時間を設定 する。 ・ 数学的な活動の時間（落下運動や自動車の制動距離など を一般化し関数として表す、話し合い活動）を設定す る。

授業改善プラン

第十中学校 理科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：生命・地球】 (観点：自然事象についての知識・理解) 単元：動物 課題：吐き出した空気には水蒸気が含まれていることの理解に改善の余地が見られる。	・吐き出される空気の成分にはどのようなものがあるのかを知識だけではなく、体験として身に着けるために、実際にビニール袋に吐き出して実験してみる。また、吐き出される気体の中には、二酸化炭素以外にも酸素もあることにも注意を促し、より理解を深めたい。 ・毎授業の最初に用語の復習を行い、ワークシートを記入していくことにより用語理解の定着を図る。 ・副教材のワークを使用して復習を行わせ、知識・技能の定着を図る。 ・フォローアップシートによる復習を行わせ、既習事項の定着を図る。
第二学年	【領域：地球 】 (観点：科学的な思考・表現) 単元：地層 課題：示準化石に適した生物の特徴の説明に改善の余地が見られる。	・示相化石と示準化石の違いについて、地層との関わりに着目させるよう授業を行い、必要性を理解する。 ・実際に示準化石を見せ、そこから年代を調べ、年代が分かる仕組みをレポートにまとめることにより理解を深め、自ら説明できるようにする。 ・理解が深まったことを確認するため、ワークシートを活用してまとめを行う。 ・副教材のワークの記述問題に取り組みせ、表現力の向上を図る。
第三学年	【領域：生命】 (観点：自然事象についての知識・理解) 単元：生物の体のつくりとはたらき。 課題：生物の細胞観察において基本的な染色液や細胞、組織、器官、個体の名称等を正確に覚える。	・実験観察においては復習のプリントを活用して、染色液や実験手順について丁寧に復習することで正確な理解を深める。 ・細胞、組織、器官に関しては具体的画像等を交えたスライド資料等を用いて説明を行い、具体的な理解の定着を図る。 ・生物単元の問題集を夏季休業中の課題とし、夏季休業明けに知識理解中心のテストを行い定着を図る。

授業改善プラン

第十中学校 英語科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	【領域：読むこと】 ○身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取り、その内容を理解している。	・英文法導入時は語順を意識した説明を行う。(発)(基) ・単語は声に出しながら覚え、文章は音読をすることでリスニング力向上を図る。(基)
第二学年	【領域：読むこと】 ○長文の内容を把握する。	・教科書の本文を扱う際、接続詞や指示代名詞について触れたり、主語がなにかを意識させたり、長文読解に必要なポイントの説明を行う。(発)(基) ・授業内で音読や多読のトレーニングを行う。(発)(基)
第三学年	【領域：読むこと】 ○思考・判断・表現及び知識・技能 日常的な話題や社会的な話題について書かれたものから必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりする。	・多読のために教科書以外の教材も継続的に使用し、ある程度まとまった文の読解練習を段階的に行う。(発)(基)